

キウイフルーツ情報 ～フルメット処理について～

2024.5.17
JA 中野市園芸課

毎日のお仕事お疲れさまです。

キウイフルーツのフルメット処理についての資料を配布致します。

下記の表を参考に、開花日を把握しフルメット処理を行なって下さい。

尚、ご不明な点は担当技術員までご連絡ください。

キウイF 担当：丸山由香

【フルメット処理】

Tel 090-1867-2512

① 処理時期（目安になります）

・赤肉・黄肉系品種（レインボーレッド／ゴールド）

開花日	20日後	25日後	30日後
5/19	6/8	6/13	6/18
5/20	6/9	6/14	6/19
5/21	6/10	6/15	6/20
5/22	6/11	6/16	6/21

・緑肉系品種（ハイワード）

開花予想：6/5頃～

開花日	20日後	25日後	30日後
6/5	6/25	6/30	7/5
6/6	6/26	7/1	7/6
6/7	6/27	7/2	7/7
6/8	6/28	7/3	7/8

② 処理方法 処理は年1回だけです。時期に応じて濃度を調整してください。

処理時期	処理濃度	処理方法
開花 20～25日後	2.5ppm (水4ℓにピン1本10ml)	果実浸漬処理
開花 25～30日後	5ppm (水2ℓにピン1本10ml)	果実浸漬処理

③ 処理上の注意

- ・処理後に降雨がない日を選ぶ。乾ききる前の降雨で効果が低下する。
- ・着果量が多いと樹体への負担が過剰となり、樹勢低下や隔年結果の原因になりやすい。
⇒樹勢に応じた処理と適正着果量に摘果を行う必要がある。
- ・処理濃度が高かったり処理時期が早かったりすると、過度に果実が肥大し、変形果や糖度不足等の問題が生じやすい。
- ・奇形果として、果頂部の突出や扁平果、果梗部の亀裂の発生などがあり、果肉の軟化や落果なども生じやすいので注意が必要である。

次面もご覧ください（内容：管理作業について）

【夏季管理（新梢管理）について】

① 目的

- 棚面の明るさを一定に保つよう管理する
- 好適樹相にする
 - ※過繁茂は早期落葉をきたす
 - ⇒果実肥大、糖度、収穫後の貯蔵性の低下や翌年の花芽への影響など
- 先端の巻き付き防止

② 実施時期

6月～7月から2～3回に分けて夏季管理を行う

*新梢の先端の巻き付きが始まる。

本年については平年より生育が早く進んでいるため早めに実施する。

③ 作業内容

ア、芽かき

上芽から発生する新梢は伸長が旺盛であり、特につぼみを持たない新梢は旺盛に伸びるため問題な枝となる。

⇒枝の背中部分から出ている強い枝は芽かきにより整理する。

イ、誘引

新梢は風に弱く、枝が折れたり葉を痛めつけられたりする。

⇒来年使う枝（更新枝・結果枝など）は早めに棚に誘引する。

ウ、摘心・新梢整理

先端の巻きつき防止のため、新梢の枝は旺盛でいつまでも伸長を続けるため摘心を実施する。（巻き付き部の整理）

⇒枝の伸長の盛んな枝は、結果部から10節くらいで1回目の摘心。

再び副梢が伸びてきたら巻きつき始めた時点で2回目の摘心を実施する。

また、徒長枝の整理を行